

# 西多摩医師会報

第26号 昭和49年11月



## 目

- 新生児の特発性総胆管拡張症……………絹巻宏ほか…2  
イタリア旅行……………高水武男…4  
マニラゴルフの旅……………波田野洋夫…6  
医事紛争委員会からの注意事項……………福島大寿…7  
臨床検査センター設置を要望す……………東吉男…8

## 次

- 社 保 講 習 会……………丸茂三千穂…8  
薬 劑 師 会 と の 懇 談 会……………8  
理 事 会 報 告……………8  
新 入 会 員 紹 介……………9  
医 師 会 日 誌……………9

# 青梅市立総合病院小児科・最近の症例から

## (1) 新生児の特発性総胆管拡張症

青梅市立総合病院小児科 絹巻 宏 岡本 暁  
池亀卵女 吉原昭次

### 症 例

患児：生後8日，女児

主訴：黄疸

現病歴：昭和49年8月15日某病院にて満期出産（生下時体重3254g，Apgar score10点）。8月18日より黄疸が出現したため21日まで毎日コートロシンZを筋注。この間の総ビリルビンは19日が25.6mg/dl，22日が12.8mg/dlであった。8月21日夜嘔吐ありチアノーゼ出現するも一過性に軽快。しかしその後時々四肢の痙攣（？）が認められたため核黄疸を疑われ，8月23日当科へ紹介され同日入院となる。なお生後ずっと人工栄養であった。

入院時現症：体重2970g，体温37.2℃，呼吸数45/分 脈拍数 152/分。全身状態良好。皮膚および口腔粘膜に黄疸を中等度に認める。頭部，胸部に異常を認めず。腹部では肝臓を右季肋下に1横指半触知し，その肝臓に接して更に下方に（ちょうど胆嚢の位置）鶯卵大の腫瘤（やや硬く表面はほぼ平滑）を触知する。神経学的には異常を認めず。

### 入院時検査所見：

#### 末梢血液所見

血色素量 20.7g /dl 赤血球数 564×10<sup>4</sup>  
血小板数 6.8×10<sup>4</sup> 白血球数 10200  
プロトロンビン活性度 100%

#### 血液生化学検査所見

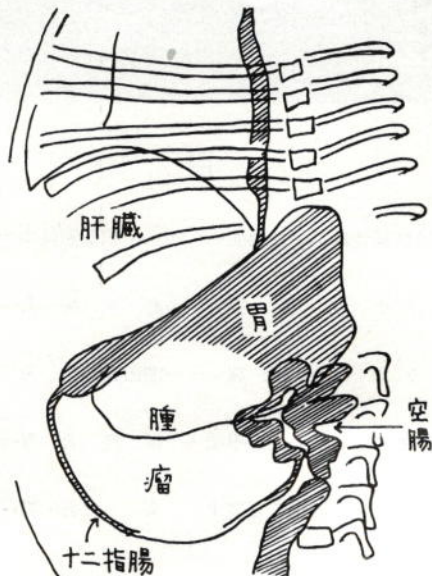
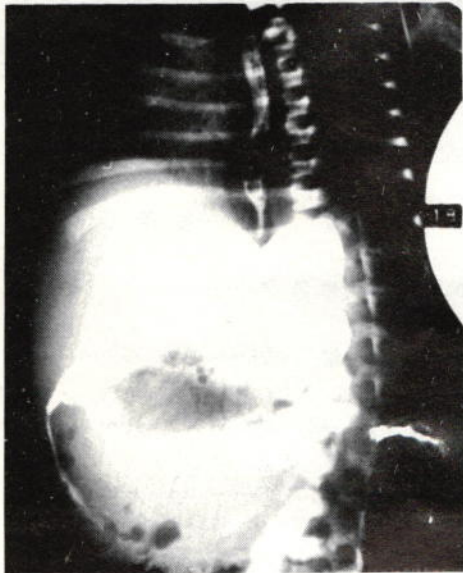
総蛋白 6.6g /dl (分画正常)  
総ビリルビン 6.9mg/dl { 直接型 4.3mg/dl  
間接型 2.6mg/dl  
GOT 23 GPT 15 LDH 560  
アルカリ・フォスファターゼ 8.2  
アミラーゼ 45単位 /dl  
総コレステロール 215mg/dl  
尿酸 25.9mg/dl  
尿酸 3.7mg/dl

#### 尿所見

反応 5.6 蛋白(±) 糖(±) アセトン(-)  
ウロビリノーゲン(±) ビリルビン(-)  
沈渣 異常なし  
糞便シユミット反応 ビリルビン陽性

入院後の経過：入院後は痙攣など異常神経症状はなく哺乳も良好であった。しかし黄疸，腹部腫瘤に加え，糞便が淡黄色にて無胆汁便に近いことが確認されたため，総胆管拡張症が疑われるに至った。そこで入院翌日の8月24日ガストログラフィンを用いて上部消化管造影をおこなったところ，総胆管拡張症に特徴的な所見が得られた。即ち，正面像では腫瘤により胃の下半部が左上方に圧排され，第2斜位像（写真）では十二指腸が腫瘤の前方を大きくC字型の弧をえがいて下行したのち後方に向かい空腸に移行しているのが認められた。

(写真) 上部消化管造影 (第2斜位像)



こうしてこの症例は特発性総胆管拡張症と診断されたが、その後、糞便は相変わらず灰白色～淡黄色であったが腫瘍は徐々に縮小し黄疸も殆んど消退し9月2日頃には肝臓の辺縁を触れるのみで腫瘍は殆んど触れなくなったしかし9月中旬には再び腫瘍と肝腫を認めるようになっていた。今後は肝機能をチェックしながら体重の増加を待ち、生後2～3カ月頃手術の予定である。

### 考 察

特発性総胆管拡張症は欧米では稀な疾患と考えられているが、本邦では比較的多い疾患であり神末らの集計によれば1955年より、1966年までに204例の小児報告例がみられたという。しかしそのうち新生児はわずか3例であり、生後9日目に診断した点にこの症例の意義がある。(もちろん確定診断は開腹手術後にならう。)当科では昭和48年1月にも本症を経験しているが8才の女児であった。

本症は先天性に総胆管が囊腫状に拡張し、放置すれば胆汁うっ滞による肝硬変をきたして死亡する予後不良の疾患である。しかし肝硬変に至る前に囊腫十二指腸吻合術などの外科的治療を行ない胆汁排泄を良好ならしめることにより治癒しうる。

本症のいわゆる3主徴は腹部腫瘍、黄疸、腹痛であるが、乳児の3主徴として腹部腫瘍、黄疸、無胆汁便が提唱されている。しかしこれら3主徴がそろって認められることはむしろ少なく、また経過中に消長を示すことから、術前診断はかなり困難とされている。(一旦本症を疑えば上部消化管造影により診断は比較的容易である。)この症例は新生児であったが初診時に3主徴がそろって認められたため幸いにして早期に診断しえたが、黄疸が軽度で腫瘍も殆んど認められなかった9月初旬に診察した場合は「新生児生理的黄疸」として見逃したであろうと思われる。

以上、特発性総胆管拡張症の新生児例を供覧し若干の考察を加えた。なお昭和47年10月から49年9月までの最近2年間に黄疸を主訴ないし主症状として当科を受診した新生児および乳児は計29例であった。その原因別分類を試みたので、参考までにそれを表にして示す。(但し新生児生理的黄疸と未熟児高ビリルビン血症は除外した。)約半数は母乳黄疸であったが、直接型ビリルビンが増

加し閉塞性黄疸の形をとるものでは乳児肝炎が6例で最も多かった。

表 最近2年間の新生児・乳児の黄疸症例の原因別分類

#### 溶血性黄疸の形をとるもの

母乳黄疸	14例
新生児溶血性疾患 (Rh不適合)	2例
新生児多血症	1例
閉鎖性出血 (頭血腫) による黄疸?	1例

#### 閉塞性黄疸の形をとるもの

乳児肝炎	6例
先天性胆道閉鎖	1例
特発性総胆管拡張症	1例
敗血症	2例
原因不明の子宮内感染症	1例

(編集委員諸先生の御快諾により今後時々当小児科の症例を供覧いたします。医学雑誌の症例報告にみられるような単に珍しいだけの症例でなく、当科での広い意味で貴重な経験をすぐに報告して、諸先生の御批判をおおき私達の日常診療に役立てたいと思います。その意味で剖検や手術による結論をまたずに供覧したいと思ひ「最近の症例から」と題しました。)

12月、1月の保険請求提出日の変更について

12月……6日正午迄 } 何れも社保国保共  
1月……8日正午迄 }

2月からは平常通り7日となります。

### 行 事 予 定

12月13日 (金) 2 p m 於 医師会館

学校医講演会 西多摩郡に於ける小、中学生の心臓病検診の結果について、講師順天堂大教授 村上正中先生

1月11日 (土) 2 p m 西多摩医師会新年会  
於 福生ボンクラブ

# イタリア旅行

高水武夫

## 再びカンターレ（歌）とアモーレ（愛）とマンシヤレ（食事）の国イタリアを訪ねて

昭和49年8月10日10時20分羽田空港を飛び立ち、南廻りで一路ヨーロッパに向う。

バンコック、ニューデリー、テヘランと空からの眺めは格別であったが、各空港待合室の2時間は猛暑のため堪えられない程であった。飛行機はいつも太陽に向かって飛んでいる様で、いつ夜になるのかと思っていたが、テヘランからカイロへ向う途中漸く日が沈みかけ、中近東の空の夕焼けは全くすばらしかった。特に日もとっぷりと暮れてから、機内放送で真下はクエートですと知らされ、空から見るクエートのながめは夢の島の様であった。

11日午前18時30分カイロ空港に到着。更に1時間55分の後ギリシヤのアテネに着く。予定ではここで1泊して見物のはずであったが、キプロス島をはさんでギリシヤとトルコの関係緊迫のため、予定を変更してローマに向う。

11日午前7時30分ローマのレオナルドダビンチ空港に到着。南廻りのため途中ハイジャックを心配していたが無事到着で乗客の間に安堵の色が現れる。

空港からバスで市内に向う途中、沿道は広々とした田園風景が続き、馬や牛が草をはんでいる風景がいかにもなごやかな印象を与える。坦々としたハイウェイはまっすぐ延びて、20分位は殆んど両側に人家らしいものを見ない。ムツソリーニ時代からの構想であった新ローマの整然たる美しい市街を通り抜け、コロシアムの遺跡の横を通り、更に終着駅で有名な中央線をみながら、ロンバルディア通りにあるポストンホテルに落ちつく。

少憩の後午後2時ローマの避暑地であるチボリ観光にバスで出発する。

チボリは古いオリーブの茂る丘の上にある古代以来の古い町で、ローマから25キロの街道の両側はローマ建築にはかかせぬ大理石の採掘場が続き、オリーブにかこまれた羊腸たる坂路を登りつめてチボリの丘につく。

日曜日のためか観光客のバスや乗用車が所狭しと並んで走り、外人観光客、家族づれのイタリアの人達、陸海空の兵隊さんがカメラをぶらさげて、恋の花を咲かせている風情はさすがお国柄と思われた。

チボリは又美しく清冽な泉と噴水の町でもあり、ピラ

・デステ宮の庭園は様々な模様をだす滝や、噴水や、水のドームで飾られ、水の大シンフォニーを聞く思いがする。こんな立派な庭園を数千年の昔につくったイタリア人の文化の偉大さに心うたれた。

チボリの広場でイタリア製の1本1ドルのネクタイを土産物として数本買って帰る。又途中安くて品のよい有名な皮製品の店チボリレザーに立寄り、皮製品の土産物を選んだ。

午後7時ホテルを出発して、一流レストランでカンツォーネをききながら「快傑ノロ」の様ないでたちの古武士が馬に乗って走り廻る余興に興じながら夕食を楽しくすませます。夕食後映画終着駅で有名なテルミニ中央駅をふり出しに夜のローマ市内をぶらつく。途中人だかりに驚いて立寄ると、野外ステージでカンツォーネを歌っているのを、皆のんびりと聞いている風情は如何にも音楽の国イタリアらしいと思った。

共和国広場を通り抜け、右手にローマ博物館、オペラ座のブロックを過ぎ、パリエリーニ広場をぬけて、スペイン階段をながめ、これがオードリー・ヘップバーンの映画ローマの休日の1シーンになった所かと思いだされた。スペイン階段の正面にあるのはトリニタ・デイ・モンティという教会で、同じくロココ風のスペイン大使館と教えられた。

広場の噴水は小舟の泉と呼ばれ、ベルニーニの作で、毎年4～5月は階段につつじが飾られ、12月8日は大使館前の聖母の像の祝福の催しが行われると説明してもらいながら、夜のローマを遅くまで散歩した。

8月12日貸切バスでナポリ、ボンベイへの観光に出発する。「ナポリを見て死ぬ」と云う文句を頭にうかべながら、ローマから南東200キロのナポリへ太陽の道をひた走る。途中左前方の小高い丘の上に城のような修道院が見える。あれが第2次世界大戦の際の「カシーノ」の劇戦地で、ハワイ2世部隊（442部隊）が活躍した丘ですとガイドの説明をきき、胸うたれる思いだった。周囲の景色にみとれているうちに、2時間余りでナポリの街に入る。

ナポリは風光明媚なナポリ湾に面した都市で、香港、リオデジャネイロと共に世界3大美港の1つになっており、人口20万でローマ、ミラノにつぐイタリア第3の都

会である。東方に欧州唯一の活火山ベスピオがそびえ、西から北にかけて約 200メートルの丘を背負い、南は紺碧の底知れぬ青さをたたえたナポリ港に面して、今日はアメリカの第7艦隊が数隻停泊しているのが見えるが、周囲の風景にそぐわぬ様である。

又ナポリ港をへだて、世界で一番美しい島カプリ、森鷗外が即興詩人の中で「瓊玕洞」と名づけた青の洞窟のある、竜舌蘭やブーゲンビリアの花の咲き、松やオレンジの樹でおおわれたカプリ島が波の彼方に浮んで見える

ナポリ全景が一望できる別荘地の高い丘に立って、ガイドの流ちょうな説明を聞きながら、皆それぞれ写真をとったり、8ミリを廻したりして時を過す。

ナポリ市内を見物しながら、ボンベイへ出発する。サントルチア海岸に突出した、お伽話にできそうな古城卵の城、カポデイモン博物館などを見物し、市役所前エマニエル2世像のある広場附近の市中心を除き、裏側に入ると路は狭く、アパートは粗末で、洗濯物などが万国旗のようにはためいているのは、日本の下町風景と同じ気安さがある。貧しくとも歌と音楽はナポリ人には切りはなせない風情で、実に陽気に振舞っているのがうらやましい。

ナポリから海岸沿いに夢の島カプリを右に見て走ると紀元前6世紀にできたと云う古都ボンベイの遺跡につく説明によるとここは紀元79年8月24日の朝、ボンベイに異変が起り、平和な1日が始りだした頃、突然大地は波のようにゆれだし、ベスピオス火山から噴きだした地獄の様な火の柱と、真黒な噴煙に市民は驚愕をく処を知ら

ない状態で、噴火灰は全市をおおい、美しい青空は一瞬に暗黒になったとのことである。市の出口の8つの門は逃げまどう群衆で地獄絵を描き、灼熱の溶岩は噴火と同時に市内に流れ込み、2,000人の市民はのみ込まれ、埋没してボンベイ市は全滅したとのことである。このことは18世紀半から発掘が始められ、次第に全貌が明かにされたとのことである。舗装された街路や、優雅な彫刻で華かに飾られた貴族の邸宅、商店や、大浴場や、劇場などそのままの形で姿を現わし、2,000年前のボンベイ文化の高さに驚かされたと云う。現在も遺跡が殆んど、云われば死の街と云える印象を受ける。

観光客でにぎわうメインストリートの一角にある一流レストランで、カンツオーネを聞きながら、ナポリスタイルの海鮮料理で昼食すましてローマに帰る。

8月13日午前9時バスでローマ市内の見物に出発する。終着駅からローマ市内見物に出発する。テルミニ駅はヨーロッパで最も近代的と云われ、美しい大理石建築で正面の大ホールには柱1本なく、両側は名店街式にレストラン、みやげ物店、カメラ店、観光案内所などが並んでいるのを見てあるく。すぐ横には共和国広場があって、広場中央のローマ最大の泉「水の精の泉」が夜間は照明に輝くとのことである。ここから北西にメインストリートを10分位歩くと中央広場（バルニーニ広場）に出る。各種商店や、レストラン街が広場を中心に放射状に伸びていて、広場の海神トリトネがほら貝で水を吹いている「ホラ貝の噴水」は既に日本には森鷗外によって紹介されている。



(スペイン広場)



(フォーロ・ロマーノにて)

## マニラゴルフの旅

波田野 洋 夫

10月11日(金)ゴルフをする組は朝7時のモーニングコール。朝食をホテルでとり、8時半頃出発、ワクワクカントリークラブに向う。マニラ郊外車で約30分程で着いた。此のコースはウエストと称する所謂パブリック18ホールとりん接してメンバーコースの18ホールの2つがある相で、最初はパブリックの方でやる積りだったが、我々の案内人の中田さんが袖の下をきかして交渉してくれた所為で、極東サーキットの行われるメンバーコースでプレイをする事が出来た。一寸日本の一流メンバーコースと考えられない事が此の国では実現する。毎年日本からもジャンボ尾崎、青木、河野高明等のトップゴルファーが此処でプレーをするのだとっていた。

9時半頃より高水会長、川崎、波田野、中田、尾崎(西多摩病院事務長)の5人で2組に分かれてスタートした。全長7078ヤード、距離のたっぷりあるコースである。ティーショットは全部バックティーから打っていた。何だかプロなみの気分を味わった様である。

天候は生憎の小雨と時折吹く強風の下に行ったが、我々には此の方が体に楽だった様である。炎天下では却って汗と疲労に悩まされて大変だったかも知れない。コースは概してフラットで途中適当なアンジュレーションもあり、ミドルやロングでは150から200ヤードあたりに必ず池やクリークで自然をうまく調和させ、簡単な様に見える乍ら、ドライバーをミスするとボシャンでメンタルにレイアウトされている。此処のキャディーは全部現地人の男で、裸足である。池に球を落しても、場所をよく見ていてくれるから、腰程の深さの所なら一度で球を池中よりひろい上げてくるのにはびっくりした。私は池に4度落したが全部拾って来た。とてもどのキャディーも朗らかで、陽気で、素足でコースを歩く位だから、体は五尺そこそこの小人だが、筋肉はしっかりしていて、ゴルフの腕の方もハンディーは4とっていた。とてもうまいのでアルバイスがよく、ナイスショットの時は自分の事に喜んでくれる。反対に失敗した時は丁寧なヘッドアップ、ヘッドアップだったとゼスチュアータつぶ

りに失敗したわけを教えてくれたりした。ゴルフマナーは日本の今迄やったどこのコースのキャディーよりも親切で、楽しかった。そんなわけで、はじめからみんな楽しい雰囲気連続で、スコアの方は全然気にならなくなった。

南国特有の椰子、パパイヤ、マンゴの木、名も知れない灌木、アカシヤ等幹は直径1米はあるので、樹木がとてもよく育っている。フェアウエーの芝は荒い草だが、よく刈り込んであり平らである。グリーンもたっぷりとってあるベントであった。日本で云へば狭山級のコースと思えばよい様である。

フィリピンではゴルフをやる人間はごく限られた高層階級だけで、日本の様に猫も杓子もやる様な事はないらしい。此のコースのレストハウスに支那式の立派な建物もあったから、或いは強大な華僑の経営であるかも知れないと思った。ハーフを2時間でゆっくり廻り一寸早かったが、昼食にした。豪勢なテンドラーインステーキで筋肉によいというパパイアをみんなで食べた。元気をついた処で午後からのハーフを廻った。日本の様に混んでいないので、午後のハーフは途中から5人一緒にプレーした。5人でプレーは日本では出来ないが、此の国では出来るのでとても楽しさが増した。午前中と同じで天候も雨だったが、コースにはややなれて来た様だったが私はやはり余計たいたいて仕舞う。コースが難かしいのだと自分で思ったりした。高水会長は流石キャリヤーが物を云って午後は非常な好スコアで廻られた。2時半頃終了。3時迎えの車でホテルに帰った。こんなに楽しくプレーして美味しいものを食べて全部で28ドルとはとても安い。日本のゴルフ場は高い訳である。又機会があったら今度は是非フィリピンでやってみたくて痛切に感じた次第である。すっかり気分がよくなったので帰りに日本から持っていった球1ダースと、帽子、ウインドブレーザー、サングラスをキャディーにプレゼントしてやった。日本人はみんなとても親切でゼントルマンといってくれたあの人なつつこいタガログ族か何族か判らない

小人ながら精悍な土人のキャディーの喜こんでくれた笑顔が何時になっても忘れられない楽しい思い出の一駒に

なる事は間違いない。

以上

## 医事紛争委員会からの注意事項

1. 医師会に所属する病院、診療所は委員会に加入すること。
2. 医事紛争事件が発生した場合は独断にて処理することは行わず委員会の指示に従うこと。
3. 診療に従事する会員は前医の治療結果等を批判する言動を慎み、いたづらに患者を刺戟しないこと。
4. 上肢へ注射を行う際は、橈骨神経麻痺を防ぐため三角筋へ行うこと。  
特に看護婦に行わせる時は適切な指示をすること。
5. ペニシリン等を注射する際は過去のショック等について問診のみでなく必ずテストを行なうこと。他の抗生物質についても慎重に対処すること。
6. 乳幼児に対し抗生物質（マイシリン、ストマイ等）を使用する場合には慎重に行なうこと。
7. 人工妊娠中絶手術施行に当っては必ず配偶者の同意を取ることを。
8. 当初の目的以外の手術を加える場合は患者側の承認を取ることを。
9. 湯タンポ等事故の起こり易い物を患者に与えるときは、付添者に一言注意を申し添えること。
10. 骨折治療については、X線撮影は透視のみでなく必ずフィルムにて撮影し、証拠書類として保管すること。
12. 担当医の過失が明白な事故は放置せず速やかに本会に届ること。
13. 警察で取り調べのあった事故については、本会で示談解決した後になっても検察庁から呼出しがある場合があるが、その際には本会まで連絡すること。
14. 電話の応答に対し、録音をしこれを訴訟の証拠として提出した例があるので、電話であっても不用意な回答をしないよう充分注意すること。
15. 本会に委任した事項は個人にて交渉を行なわないこと。
16. 不確実にもかかわらず安易に過失を認め医師賠償保険から支払うような話をし、相手方に賠償金を入手

し得ると言うような印象を与えないこと。

### 追記

別紙の医事紛争委員会からの注意事項は8月に開かれた医事紛争担当理事連絡会で渡されたものであります。当日は渡辺会長、鳥羽副会長が出席し米島理事が説明に当たりました。

昭和49年8月22日現在で都医師会員の事故のうち日医に付託された19件の事故の具体例を挙げて説明がありました。事故のうち最も多いのは下熱剤の注射による橈骨神経麻痺であってこの原因は注射部位が適当でなかったもの、つまり着衣の腕まくりが不十分であったもので肩が完全に見える様にしてから注射することに注意する。婦人科の手術、鉗子分娩に関係した事故も多い。その他ザルプロ、シボン(モハン薬品20ml解熱鎮痛鎮静剤)の静注によるショック死もあります。

患者側の態度発言で事故にされそうな気配を感じた時の医師の発言特に第一声は慎重にし仮初めにも過誤と受け取られる発言をしてはならない。まして保険に加入しているから保険会社から金をもらへと言ふ様な意味の発言は禁物です。又面識があるからとか近隣であるとかで安心してはならない。面識があればあるほど近隣であるほど医師の内情に詳しいので特に注意を要する。

一旦事が発生した場合は自分の所属する会の会長へ連絡し東京都医師会医事紛争等処理特別委員会へ連絡すること。この場合に必要書類は医事紛争願末報告書又は予防接種事故願末書と委任状とが必要であります。書類の見本は当医師会事務所にもありますが49年4月現在の委員会規則及び同細則と表題を記した小冊子が会員に配布されて居ります。

念のため更に付け加えますが患者から苦情を申し入れられた場合は自分の過誤を認める様な発言は慎しみ、西多摩医師会々長に報告しその後の交渉は医師会に一任し自分で直接処理しないことが望ましいと思います。

(福島大寿)

## 臨床検査センター設置を要望す

東 吉 男

診断を確実にする為、又疾患の早期発見に臨床検査は欠かせないものであることは我々医師の誰もの認むるところであり、その重要性は今後々増大するであろうと言われている。併し現実にはどうであろうか、最近の医学の進歩は目覚ましいものがあり、それにつれて臨床検査の範囲も多岐多端に亘り、その技術も専門化且つ高度化し、それと共に検査設備も限なく高額となり、到底我々一般開業医の力では思うことの何分の一も為し得ない状態となりつつある。此の病気には最低これこれの検査が必要であると分っていても実際やるとなると①多忙の為時間が無い、②設備器械が無い、③検査技術に自信が無い、④検査点数が低くて採算が合はない、等の理由により、ついやるべき検査を見合はせ勤による診断に頼り誤診を招く結果となる事が多い。かかる場合大抵の開業医は検査設備の完備した大病院に患者を紹介しその責を逃れるという安易な道を取り勝ちである。そしてその紹介した患者の結末については殆んど知られないのが現状ではなかろうか。このような状態では我々一般開業医の診断能力は少しも前進しないばかりか、近代医学の診断技術を身につけた後進の若い医師に益々水をあけられる結果となることは自明の理であると思う。

最近府県単位或は地区単位で各地に臨床検査センターが設けられ、地域医療に従事する一般開業医の便に供せられていることはよく耳にする所であるが、遺憾乍ら我が西多摩地区にはかかるセンターが設置の動きもなければ要望の声もない現状である。私は以上の観点から是非とも当西多摩地区に臨床検査センターの設置を強く要望するものである。もし予算その他の関係で早期実現が不可能ならば、近在の大病院と提携し、我々の検査依頼を気軽に受け入れられる様な制度の確立を西医の重要課題の一つとして検討してもらいたいものと思う。

## 社会保険講習会

10月1日から保険点数が改正されました。此の新点数の説明をかねて講習会が10月19日(土)午後2時より、会館講堂に於て開催されました。

講師及び演題は立川社会保険事務所小野所長の挨拶について、東京都民生局中川技官より新点数の説明、解説(約1時間)、立川社会保険事務所細田給付課長より、旧用紙の取替い方の説明(約15分間)、最後に東京都医師会理事井上敬勝先生より保険診療の問題点について(30分

間) 夫々説明がありました。参加人員は約70名でした。

講話の要点は再診料、特に乳幼児加算の新設、往診料の改正、特に診療時間が1時間をこえた場合の取扱い、処方箋料の改正特に院外処方箋発行の際の注意事項、常態として院内院外両処方箋の2本立はおかしい。皮膚料処置点数の改正、手術点数の改正特に新生児、乳児の加算についての説明、入院料の改正、特2類の新設等に付き細く、要点に付いての説明がありました。

此れ等の中特に再診料の乳幼児加算の新設、院外処方箋の発行時の注意、入院料の改正点については、馴れる迄は間誤つく事も多いと思いますので、日医及び都医の参考資料(既に配布済み)をよく御覧下さって御間違いのない様にして下さいとのことです。

尚9月以前の請求洩れがある時は少数ならば10月の分と一緒にでもよいが、多数の時は別とちにして下さい。

(丸 茂 三千穂)

## 薬剤師会との懇談会

西多摩薬剤師会の申し入れで懇談会が、10月25日午後8時から医師会館で薬剤師会の主催で開かれました。

本会側出席者は高水会長、山田副会長、瀬戸岡副会長、丸茂、矢ヶ崎、箱崎、福島各理事、薬剤師側は岸会長、堀田副会長他8名でありました。

堀田副会長の司会で会が進行し先ず高水会長の挨拶がありました。堀田副会長の説明は、要は今回の保険医療報酬点数の改正で処方箋料が50点になったので処方箋の発行が増えるであろうし、その時に薬剤師側に混乱のない様医師会に種々教えてほしいとのことでありました。この懇談会については10月23日の理事会ですでに検討済みでした。すみまち西多摩医師会の会員は、現時点では処方箋が増額されたからといって直ちに処方箋発行ということとは考えないであろうし、従来通り院内で投薬することを続けるべきであるし、また一方医師の診察をうけ処方箋をもらい薬局に行くということは、患者にも迷惑であるのでこの点は明確に薬剤師側に説明すべきであるとの結論でした。薬剤師側に念を押す意味もあり、10月23日の理事会の模様を説明したところ、薬剤師側はただ単に処方箋のことだけでなく今まで医師会と薬剤師会とのコミュニケーションがほとんどなかったので、今後もよろしくという意味で開催したので協力を願いたいとのことでありました。

## 理事会報告 (49. 10. 23)

地区医師会長協議会報告(49. 10. 18) 会長



- 1) 緊急往診駐車証の更新について  
各医療機関に配布済み
- 2) 学術講演会の開催について  
別途通知済み
- 3) X線診断の件数調査協力依頼について  
放射線医学総合研究所が放射線の医学利用による患者の被曝量を調査するもの  
当医師会該当機関  
青梅厚生病院 佐藤医院(羽村)
- 4) 優性保護法指定医の指定更新について  
指定医に配布済み
- 5) 都衛生局関係医療費公費負担(対象疾病の範囲)について  
通知済み
- 6) 49年度救急医療施設医師研修会について  
11月13日(水)と11月26日(火)  
午後1時30分より日仏会館に於て。  
演題 救急医療取扱上の諸問題
- 7) 学校医一本化について 福島理事  
担当理事に説明済み
- 8) 請求明細書等の様式一部変更とその記載要領及び従来様式の取扱い方法について  
既に印刷配布済み
- 9) 点数表等の一部改正等に関する留意事項(追加)について  
既に印刷配布済み
- 10) 処方箋発行に関する留意事項について  
既に印刷配布済み

#### その他の事項

- 1) 薬剤師会との会合について
- 2) 三多摩懇親会 会計報告(山田理事)
- 3) 保険部報告(箱崎)  
市町村国係との懇談会、国保講習会の予定
- 4) 市町村長と医師会懇談会予定
- 5) 入会希望者氏名 7名承認

### 新入会員紹介

吉野 住雄先生(大正10年10月生)

吉野内科医院 青梅市河辺町8-7-7 TEL 0428①2350

昭36年東京医科歯科大医学部卒, 37年大学院, 41年日赤中央病院, 44年青梅市立総合病院内科勤務

市原 靖先生(昭和2年11月生)

聖明園市原診療所青梅市根ヶ布2の772 TEL 0428⑦4093

昭29年慶応大医学部卒, 昭30年自衛隊練馬部隊勤務,

32年国立埼玉病院, 39年3月青梅市立総合病院勤務

鈴木 清先生(昭和3年9月生)

博生会西多摩病院羽村町川崎721 TEL 0425④0838

昭28年慶応大医学部卒, 29年同大医学部教室, 38年東京医科歯科大内科, 43年青山学院大教授

鈴木 幸雄先生(昭和5年4月生)

青梅保養院 青梅市長淵5-1080 TEL 0428②3126

昭30年日本医大卒, 31年同大精神科, 36年緑雲会多摩病院, 42年清風会富士見病院勤務

井口 幸乃先生 青梅保養院

昭10年帝国女子医専卒, 10年同小児科, 16年西井病院  
17年藤沢病院勤務

志田 知也先生(大正10年1月生)

西東京病院 青梅市成木1-122 TEL 0428⑦5228

昭19年慶応大学医学部卒, 22年同大医学部助手, 29年国立下総病院, 38年井之頭病院, 42年山崎病院勤務

### 医師会日誌

- |       |   |
|-------|---|
| 10月7日 | 保険整備会                                     |
| 14日   | 会報編集委員会                                   |
| 〃     | 警察送打合せ会(都医)<br>三多摩地区警察医務院決定について<br>(栗原先生) |
| 15日   | 都医, 学校医担当理事連絡会(福島理事)                      |
| 17日   | 産業医講習会                                    |
| 18日   | 都医, 会長協議会(高水会長)                           |
| 19日   | 社保講習会                                     |
| 〃     | 西医ボウリング例会                                 |
| 21日   | 総務理事会                                     |
| 22日   | 奇術部例会                                     |
| 23日   | 理事会                                       |
| 〃     | 保健所連絡会                                    |
| 24日   | 運転者講習会                                    |
| 〃     | 母子保健対策協議会(青梅保健所)                          |
| 25日   | 薬剤師会との打合せ会                                |
| 27日   | 調布市医師会10周年記念式(山田理事)                       |

昭和49年11月1日発行

発行所 西多摩医師会

東京都青梅市西分町3-103

TEL (0428) 23-2171(代)

会報編集委員 大河原 周 丸 茂 三千穂  
平 林 信 隆 松 原 貞 一  
米 山 秀 雄 木 野 村 幸 彦



## 従業員福祉年金(退職金)のご案内

看護婦さんの結婚等の退職に備えて……

月々1,000円(1,000~5,000円)の掛金で賄える

医師福祉年金・労働保険(失業保険, 労災保険)等も扱っております。

申込みは



**西東京医師協同組合**

☎0425 (24) 6411代表

— やまとの保険で  たのしいプラン —

### ドクター・セーフティ・プラン

《最高保障額》

死亡保障	1億500万円
災害による不具(廃疾)保障	1億500万円
休業補償1日につき	1万円
医療費補助	100万円



立川支社 TEL.0425(24)5273

立川市錦町3の6の1